

今回の「医薬品適正使用・育薬トレーニング」の問題
一般調剤のリスクマネジメント

問題提出：平成 28 年 10 月 2 回目

問題解答：平成 28 年 11 月 1 回目

<処方1> 6歳の女児（体重：15 kg）。処方オーダーリング。小児科クリニック。

プルスマリン A ドライシロップ小児用 1.5%	0.8 g	分 3	8 時間毎	4 日分
アスベリン散 10%	0.4 g	分 3	8 時間毎	4 日分
ペリアクチン散 1%	0.4 g	分 3	8 時間毎	4 日分

<処方2> 5歳の女児（体重：16.5 kg）。処方オーダーリング。小児科クリニック。

プルスマリン A ドライシロップ小児用 1.5%	0.9 g	分 3	8 時間毎	4 日分
アスベリン散 10%	0.45 g	分 3	8 時間毎	4 日分
ペリアクチン散 1%	0.45 g	分 3	8 時間毎	4 日分

【何が起こったか？】

同時に処方された姉（6歳）と妹（5歳）の薬を調剤している時、年上の患者の包に紫色の線を引くことになっていたが、間違えて年下の患者の包に線を引いてしまった。

【どのような経緯で起こったか？】

当該薬局は小児科クリニックの門前にあり、応需する処方せんほとんどが小児患者である。

6歳と5歳の姉妹が母親に連れられて来局し、母親は薬局カウンターに2人分の処方せん（処方1と処方2）を提出した。両人とも感冒で、くしゃみ、鼻汁、咳嗽などの症状が見られるとのことであった。

当該薬局では、兄弟姉妹で同じ粉薬を分包して同時に出す場合、取り違えなどを防ぐために年上の方に“紫色の線”を引く取り決めになっていた。今回、処方薬と用法は全く同じであり、用量のみが相違していた。調剤した薬剤師は、用量が多い処方が年上であると判断して、処方2の分包紙に紫色の線を引いた。

調剤薬鑑査を担当した薬剤師が、妹の分包紙に紫の線が引かれていることに気づき、調剤ミスが発覚した。調剤した薬剤師は調剤し直し、正しい薬を患者の母親に交付した。

【指導薬剤師から一言】 難易度 ★★☆☆☆

兄弟姉妹の処方せんが同時に薬局に提出された場合のトラブルを考える。